



東京理科大学工学部応用生物科学科

中村 由和

2019年4月に東京理科大学工学部応用生物科学科にて准教授として研究室を主宰する機会をいただきました。東京理科大学という大学名から東京にあると思われる方も多いかもかもしれませんが、私の所属する工学部は千葉県の利根運河沿いののどかな場所にあり、人混みが苦手な私には過ごしやすい環境です。着任後、一年経った今、私が感じている応用生物科学科の一番の特徴は「多様性」です。微生物、植物、動物など多様な研究対象に対し、細胞、分子、個体という異なるレベルでのアプローチを行う個性豊かな研究室が一つの学科に存在するのは今まで経験したことが無く新鮮で、日々、異分野の研究からの刺激を受けております。2019年度は初めての経験の連続で戸惑うことばかりでしたが、初代メンバーとして研究室に参加してくれた意欲溢れる博士研究員1名、学部4年生3名、事務補助員1名の献身的な協力のおかげで苦勞しながらも楽しく研究室の立ち上げを進めることができ、年が明けるとはだいぶ研究ができる環境が整って参りました。もちろん学科の先生方をはじめ、周囲のたくさんの方々の温かいご支援も大変大きな助けとなったのは言うまでもありません。研究環境が徐々に整い、いざ、実験をはじめると研究室であれば当然揃っているべきものが無いという事態が頻発し、当たり前で実験ができる環境で研究させてもらっていたことの有難さを痛感した一年でもありました。2020年度は新たに学部4年生が8名配属され、研究室がさらに賑やかになる予定です。今しかできない経験と思い、研究室の立ち上げを引き続き楽しみたいと思っています。

研究室を主宰するにあたり、早々に私自身は優秀な研究者ではないことを研究室員に公言し、「私が提案する研究テーマなんて面白くないので、与えられた研究テーマに取

り組む中で自分が偶然に遭遇した面白い現象を見逃さず大事に育てていきましょう。」と伝えています。偶然の幸運頼りの頼りない研究室主宰者なのですが、偶然の幸運に出逢える可能性を少しでも高めるための策は日々、考えており、そのためのキーワードは①楽しむ、②余裕、③遊び心だと思っています。そのため、目的に向かって一直線になり過ぎることなく、研究を楽しむことを重視し、多少、脱線しても面白いことを面白いと感ずることができる余裕や遊び心を持てる雰囲気作りを心がけています。私自身が心から研究を楽しむことも大事だと思っています。まとまった量の実験を自分自身が手を動かして行うのは難しくなりましたが、採れたてホヤホヤのデータに対して実験者に負けにくい、興奮し、面白がる気持ちは持ち続けたいと思います。

前職の東京薬科大学の深見希代子先生の研究室では、イノシトールリン脂質の一つであるホスファチジルイノシトール4,5-二リン酸 (PIP₂) を代謝する酵素、ホスホリパーゼC (PLC) の生理機能解明を目指した研究を行い、PLCの皮膚、胎盤、心臓における役割を明らかにして参りました。これまではPLCが産生するPIP₂の代謝産物やその下流シグナルに注目して研究をしておりましたが、現在は、それに加え、PIP₂自体の機能に着目した研究も進めています。独立に際し、大学院時代の恩師である竹縄忠臣先生から「他人が一目見ただけで、あなたが描いた絵だとわかるような絵を描けるようになりなさい」というアドバイスをいただきました。まだ絵の輪郭すら見えて来ず、果てしない道のりですが、いただいた助言を忘れずに、目先の事だけに左右されることなく、落ち着いて日々の研究に取り組んでいきたいと思っています。

